



郷土かがわを戦場にするな署名を急いで集めて下さい。～ 8月末が署名1次締切です。



7/15 虹の里 藤原所長も呼びかけ人で連絡会結成

自衛隊などが有事をにらんで民間港を軍港のように整備・活用する特定利用港湾の問題で、高松市の高松港が指定されたことに反対する「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会が7月に結成されました。県民への丁寧な説明もなく指定を受け入れた県に対し、撤回を求める署名に8月末をめどに取り組んでいます。

全国38の空港・港湾が候補となりましたが、4県22か所が受け入れを見送り、全国で受け入れ撤回の運動が起こっています。高松は8月末が1次メ切となっています。ぜひご協力をお願いします。

結成総会に参加した、「高松空襲を語り継ぐ会」の医療生協の組合員 戸祭さんは、「私は、1945年の高松空襲の惨状をこどもの時にこの身に経験しました。高松の町に広がる戦火の中を、たくさんの死体や焼きただれ助けを求める人たちの間を縫うようにして必死に走って逃げました。その時に見た、この世のものとは思えない地獄のような光景は今なお目に焼き付いて消えません。だから今日も、付き添ってもらいながらここに来ました「戦争はもうこりごり。むごいものです」と訴えました。



高松港には、いま次々と護衛艦、掃海母艦、イージス艦などが毎月のように入港し、一般公開も広く広報され、異様な風景の日常化が図られています。

国際人道法といわれるジュネーブ条約第1追加議定書では、民間施設（空港、港湾など）を軍隊が攻撃することは許されていません。しかし、その民間施設を自衛隊等が使用するという事は、軍事施設であるとみなされ、攻撃対象としてその施設や周辺の民間人の生命を危険にさらすものになります。高松港が攻撃対象にもなりかねないという事柄を隠して「南海トラフ地震対策にメリットがある」と一面的に強調するのは、県民の生命等を守る自治体の施策として適切ではありません。引き続き毎週月曜日の平和を求めるスタンディングでも「戦争する国づくりNO」の声を上げていきましょう

定例平和社保宣伝: 【市民連合】19日朝7時半/ 【社保協】25日朝7時半/ 【憲法C】第2(水)17時半
【革新懇6の日行動】6日12時/ 【原水協6・9行動】9日12時/ 【原発なくす会】最終(金)17時半